


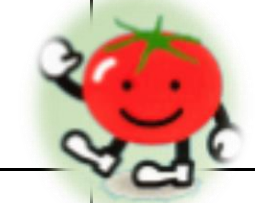


令和6年度 新人看護師年間教育計画 年間目標: 基本的な援助技術を習得し、安全・安心な看護を提供できる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
到達目標 	1.社会人としての接遇を身につけることができる 2.病棟の雰囲気になれることができる 3.基本的な疾患について自己学習できる	1.日勤業務が分かる ①基本的な療養上の生活援助が理解でき、指導のもと実施できる ②病棟の主疾患の基本的な知識を得ることができる 2.感染対策について理解する	1.日勤業務が分かる ①基本的な療養上の生活援助ができる ②複数人数の患者を受け持つ事ができる 2.褥瘡対策について理解する 3.医療安全について理解する	1.日勤業務が分かる ①受け持ち患者の優先順位を考慮して1日の業務を組み立てることができる 2.緊急時・急変時の指示を受けて行動できる	1.3か月の振り返りができる 2.経験を重ね技術習得を目指す 日勤独り立ち	1.メンバーシップを理解する 2.急変時の看護について理解する	1.夜勤業務が分かる 2.受け持ち看護師として指導のもと入院～退院までの一連の流れを理解する	1.6か月の振り返りができる 2.災害看護について理解する	1.受け持ち看護師として看護展開ができる(フォローのもと)	1.受け持ち患者の看護を振り返りサマリーの記入ができる	1.1年の振り返りができる 2.1年の振り返りレポートを指導のもとまとめる	1.2年目に向けて事故目標の設定ができる	
行動目標 	1.社会人として責任ある態度をとる ①患者・家族・スタッフにあいさつができる ②体調管理ができ、毎日出勤できる ③身だしなみを整えることができる 2.職場の規律を理解し守ることができる ①守秘義務を実行する ②病院職員として自覚が持てる 3.自己学習及び自己研鑽の必要性と方法がわかる	1.日勤業務を理解する ①ホウレンソウが指導のもとできる ②指導のもと日勤業務が実践できる(一つ一つの行為根拠を持って実施) ③人間関係(他スタッフや患者)コミュニケーションがとれる ④指導のもと看護記録が正確にできる ⑤指導のもと検査出しが行える 2.スタンダードプリコーションの理解・実践	1.日勤業務を理解する ①勤務帯での自分の役割を指導を受けながら理解することができる ②受け持ち(複数1部屋)できる ③指導のもと、入院を受ける 2.①褥瘡対策について考えることができる 3.①インシデントレポートが指導のもと記入できる	1.日勤業務を理解する ①頻度の高い基本的看護技術を習得 ②複数の受け持ち患者の優先順位を考慮して行動できる(時間管理ができる) 2.①指導のもと緊急時、指示を受けて対応することができる ②緊急時や状況の急激な変化に遭遇した時の連絡方法が言える ③救急カートの点検ができる	1.指導者と共に、3か月の振り返りができる 2.課題を明確にし、主体的に学ぶことができる ・遅番・遅日勤の見学 ・日勤独り立ち	1.①各勤務帯で自己の役割を理解し、自らの仕事を行うことができる ②各勤務時、分らない事を他のスタッフに聞くことができる 2.急変時の対応の流れを理解できる	1.①夜勤の流れを知る ⇒夜勤導入し指導のもと夜勤を実施する 2.①受け持ち看護師の役割を理解する ②実地指導者とともに受け持ち患者の看護が展開できる	1.指導者とともに6か月の振り返りができる 2.防災訓練に参加し、災害人時の自己の役割について理解する(指導のもと)	1.①プライマリ・NSとして一人の患者さんの看護展開ができる ②ケースカンファレンスやデイカンファレンスに参加して問題提議ができる(受け持ち患者の)	1.①受け持ち患者の看護を振り返ることができる 2.指導を受けながら1年の振り返りレポートをまとめることができる	1.2年目に向けて自己目標の設定ができる		
勤務	・日勤のみ	・日勤のみ ・2～4人受け持つ	・日勤のみ ・4人受け持つ	・日・祝日の日勤開始 ・4～7人受け持つ	・遅番・遅日勤の見学 ・日勤独り立ち	・遅番・遅日勤開始 ・インフルエンザの予防	・夜勤の見学	・夜勤の開始					
集合教育 (of-JT)	★オリエンテーション(仁生会・三愛病院) ●医療安全 ●感染対策 ●褥瘡対策 ●栄養管理 ●移動の介助、ポジショニング ●医薬品の安全管理 ●放射線の安全管理 ●高齢者虐待防止 ●エンゼルケア ●履修ノートの書き方 ●魅力ある看護専門職に成長するために(看護協会)	●注射・輸液(看護協会) ●輸液ポンプの取り扱い	【3か月研修】 新人意見交換 ●ファジカルアセスメント(看護協会) AEDの使い方、BLS(日本光電)	●救急対応(看護協会) ●社会人基礎力の向上(看護協会) 仕事についていけないと感じたときどうしたらいいの？		【6か月研修】 事例研修		●看護部高齢者虐待研修14:00～16:00 インフルエンザの使い方(検査室) モニター心電図計の使い方(検査室)			【1年目研修】 13:30～14:30 ・フォローアップ研修(1年を振り返り、次年度に向けての課題が見出す)		
現場教育(OJT)	病棟にて確認												
看護基本技術 水準1 (厚生労働省による)	環境整備技術	□ベッド周囲の環境整備(温・湿度、換気、採光、臭気、騒音、病室整備) □基本的なベッドメイキング □基本的なリネン交換											
	食事援助技術	□疾患別の食事の理解 □対象の個別性に合わせた食事の工夫と援助											
	排泄援助技術	□便器・尿器を当てる介助 □おむつ交換 □摘便 □導尿 □留置カテーテル挿入中の観察(尿の性状・量)											
	活動休息援助技術	□車いすでの安全な介助・移送 □ボディメカニクスの知識や技術を用いた体位変換 □ストレッチャーでの安全な介助・移送 □食事・排泄・清潔・騒音などの環境を整え睡眠の質を高める											
	清潔・衣生活援助技術	□清拭 □洗髪 □口腔ケア □陰部ケア □対象者の個性に応じた部分ケア □入浴時の援助 □寝衣交換											
	呼吸・循環を整える技術	□酸素吸入療法中の管理(対象の観察・指示量や加湿・接続の確認) □ネブライザーの実施 □吸痰											
	創傷管理技術	□滅菌物の取り扱いができる □褥瘡ケア □原理・原則に基づいた与薬 □経口薬の与薬 □外用薬の与薬(点眼・湿布・座薬など) □皮下注射 □皮内注射 □筋肉注射 □静脈注射の準備と介助 □点滴静脈注射の準備・介助・管理 □中心静脈内注射の準備・介助・管理 □輸液ポンプの準備と管理 □抗生剤の種類・用法と副作用についてのアセスメント □輸血の準備・輸血中と輸血後の観察 □消毒液の種類と作用・用法、取り扱い □インスリンの種類・用法と副作用についてのアセスメント											
	救命救急処置技術	□意識レベルの観察 □呼吸状態の観察 □脈拍の観察 □救急カートの場所と物品内容の把握											
	症状・生体機能管理技術	□体温・脈拍・呼吸・血圧を正しく測定 □測定値の評価、記録と報告 □身長・体重を正しく測定 □測定値の評価(栄養状態や発達の状態) □観察した症状、アセスメントの記録と報告 □動脈血採血(血ガス・培養)の準備と検体の取り扱い □採血・採尿・尿検査の方法と検体の取り扱い □血糖測定と検体の取り扱い □24時間持続モニターの管理 □パルスオキシメーターによる測定											
	安楽確保の技術	□対象に合わせた安楽な体位の保持 □温電法・冷電法											
感染予防の技術	□スタンダードプリコーションが実施できる □洗浄・消毒・滅菌のうち、適切な方法の選択 □適切な手洗い方法 □防御用具(ガウン、手袋、ゴーグルなど)の使用方法 □使い捨て注射器、注射針、刃など耐貫通性の専用廃棄容器に廃棄												
安全管理の技術	□転倒・転落防止策の実施 □誤認防止策の実施 □インシデント(ヒヤリハット)事例や事故事例の報告												
必要最低限の項目各病棟で追加可	・オリエンテーション(病院構造・情報管理) ・接遇 ・勉強会、自己学習	・看護技術 ・情報収集、1日の計画立案 ・VS測定 ・看護過程 ・日常生活援助(食事・排泄・清潔・移動時の援助など) ・感染予防技術(スタンダードプリコーション)	・診療の介助(採血、点滴確保時、回診時など) ・輸液ポンプ(シリンジポンプ) ・褥瘡予防(体圧分散マットレスの選択や除圧の方法など)	・急変時の対応について(連絡の方法、意識レベルの把握方法、救急カートの点検など)	3か月評価	・災害看護(防災訓練)	・急変時の看護(シミュレーション) ・人工呼吸器	プライマリ・Nsとしての看護展開 6か月評価		受け持ち患者の振り返りを指導者で行う	1年評価		
行事	入社式 健診								☆ボーナス支給☆				

*各病棟で調整する項目 ①BCPの説明 ②看護必要度(対象病棟) ③ブルーコール